

(様式2)

平成 24 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590100424		
法人名	社会福祉法人 愛宕福祉会		
事業所名	グループホームなかのくち		
所在地	新潟県新潟市西蒲区福島311-1		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/15/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成24年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者にとってグループホームは新しい家でありまた入居者、職員は家族でありたいといった考えのもと、入居者にとってこれまでしてきた事をできるだけ継続しまた出来る事を発揮して頂けるよう支援しています。
日々の会話を大切にし寄り添うケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

保育所の跡地に平成21年の春に開設された、ウッドデッキが目印の事業所である。ウッドデッキや周辺の飛び石など手作りの温かみを感じられる外観である。
事業所は、同法人が運営する特別養護老人ホームと隣接しているため、当初は地域でのグループホームとしての認知度は低かったが、管理者を中心に地道な活動で地域との交流に取り組んできた。その甲斐もあり、平成25年度からは運営推進会議に民生委員や老人会長の参加が見込めることとなった。
利用者の重度化が進行している中、利用者の身体の状態に合わせて職員の勤務態勢を整えたり、日々の関わりの中での気づきをミーティングで検討して柔軟に対応するなど、利用者寄り添ったケアに取り組んでおり、現在までに3名の利用者の看取りも経験している。「もし自分が認知症だったらしてほしいこと、してほしくないこと」を職員間で話し合っ自分たちの関わりの振り返りを行ったり、ハンドケアやフットケアなど利用者にとって良いものは積極的に取り入れるなど、常に前向きに努力を重ねている。サービス評価にも積極的に取り組み、自己評価を通して真摯に自らのケアを振り返り、謙虚に課題に向き合っその解決に意欲的に取り組んでいる。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設以来「一人ひとりの想いを大切に共に笑顔で暮らします」という理念について変更なく、職員は見なくても言えるようになってきている。理念実現に向け1人ひとりの関わり方や想いを会議や日々のミーティングで話し合い、職員全員で共有できるように努めている。	年度初めに全職員で話し合っ、理念を具体化した基本方針と重点目標を決めており、半期に一度、個人面談を兼ねて振り返りを行っている。また、認知症実践者研修等への参加を通して、全職員で利用者の立場で考えたり理念を振り返る機会を持っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会の一員とし、地区の一斉清掃や運動会への参加を行っている。また、老人会にも入居者と一緒に不定期ではあるが参加している。日常的な買い物も近隣のスーパーを活用するよう心掛けている。ゴミだしも地域のゴミステーションを利用している。ボランティアや入居者知人から野菜を頂いたり、お話に来ていただいたりとお話を図っている	隣接する同法人施設の地域交流スペースで知り合った地域の方が遊びに来たり、地域のボランティアの方の家に利用者とお茶を飲みを訪ねるなど親しく交流している。老人会に参加した際には、事業所の説明を行って地域の理解を深めるよう努めており、地域の一員としてゴミステーションの掃除当番等の活動への参加について地域との話し合いを進めているところである。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を発行して地区の回覧版を活用したり、出張所に置いたりしている。地区の老人会に入居者と一緒に参加し、グループホームの紹介を行っている。ボランティアスクールや学校の体験学習の受け入れを行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で委員からいただいた意見を参考にケアに反映させている。広報誌の内容にグループホーム内の事故状況についての意見をいただき今年度から掲載を行っている。	会議の持ち方についても話し合われており、活発な意見交換のために自治会長の提案で民生委員の参加と、かねてからの懸案の老人会長の参加が平成25年度から実現することとなった。また、委員の提案で、広報誌に事故報告や職員紹介の欄を設けるなど、意見をサービス向上に役立てている。	事業所の新たな決まり事や、運営状況をより広く知ってもらえるように、会議録を家族に送付してはどうか。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員から助言を頂いたり、相談をさせていただいている	運営推進会議に参加している地域包括支援センター職員には事業所の状況報告を行っており、相談・助言など連携が図られている。市役所の担当者とは、事故報告や介護認定の更新申請など、連絡は密接であるが、事務的な内容にとどまっている。	市役所の担当者へは、運営推進会議の議事録を提出し、制度改正時には会議へ招いたり、事業所のイベントへの参加の声をするなど、積極的に事業所の現状を伝える機会を持って協力関係を築くことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	隣接する中之口愛宕の園と合同の研修に参加し「身体拘束しないケア」について理解を深めている。施錠は夜間のみとし行っていない。歩行器具等使用している入居者がいつでも使用できる位置におき、自由に移動できるよう努めている	隣接する同法人施設と合同で研修を行っているが、マニュアルは独自のもを整備しており、ミーティングで言葉による行動制限についても話し合う機会を持っている。玄関は掃き掃除を日課にしている利用者があるため開放されており、一人で外出する方をさりげなく見守るなど、利用者の自由な生活を尊重した対応を行っている。	研修は定期的に行われているが、参加できなかった職員に対しては資料の配布のみとなっている。身体拘束に関して全職員が正しく理解し、ケアに活かしていくことができるよう、事業所独自でも勉強会等の実施を検討してほしい。
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待が見過ごされていないよう職員同士注意を払っている	市役所から配付された虐待対応マニュアルは、職員がいつでも確認できるよう整備されている。職員は利用者の様子をさりげなく観察することで早期発見に努めている。また、管理者は、職員がストレスをためないよう頻りに声かけをしたり面接をしており、不適切な言葉かけがあった場合はその都度指導している。	関連施設と合同で平成24年度中に研修を行う予定であるが、基本的に研修は自主参加である。研修資料を活用し、事例・演習なども取り入れて、正しい知識を全職員が身につけることができるよう事業所独自でも勉強会等の実施を検討してほしい。
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者が成年後見制度を利用されている。制度活用の際に勉強会を行った。今後も制度について学ぶ機会が必要と思われる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に事前に自宅訪問やグループホームにお越しいただき、疑問点や不安感ができるだけなくなるよう説明をしている。入居前に何度でもお越しいただき雰囲気を感じていただき、いつでも相談していただけるよう説明している		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、設置以来意見等の投書をいただいた事がなく、活用方法について再度検討が必要と思われる。面会時や電話連絡を行って意見や要望を聞くよう努めているが、何でも言い合える関係には至っていない。	本人の希望や要望は日々の関わりの中で拾い上げている。新年会、敬老会、事業所の祭りなどの行事の折には家族と職員が意見を交換する機会を設けている。家族の提案を基に広報誌に職員の紹介欄を設けたり、担当職員が定期的に本人の近況報告を行うこととするなど、直ぐに解決できるものは直ぐに実行し、そうでないものは手順を踏んで解決してサービスの向上に役立てている。平成24年度は関係施設と合同で苦情解決の勉強会も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のグループホーム会議や中之口愛宕の園との合同会議を行っている。また1日一回の申し送りや申し送りノート、職員との面談等を活用し意見交換に努めている	毎月のグループホーム会議、毎日の職員ミーティング、半年に1回の面談等、職員が意見・要望を表出する機会を設けている。リビングの畳スペースで利用者がゆっくり過ごせるようにテレビの配置を変えるなど、随時職員のアイデアを取り入れている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度、キャリアパス制度、メンタルヘルスケアなど整備されている。自己研鑽の場の提供や異動、勤務地希望等の要望も考慮している		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内において職員の段階や職種に応じた、内部研修、外部研修を実施している。また、職員が働きながら勉強できる機会を設けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に他法人の管理者が委員として参加していただいております。意見交換を行っているが、施設全体としては交流が行えていない。法人内の地域密着型事業で定期的に会議を行い、情報交換を行っている		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけご本人の要望や困っている事に耳を傾けている。入居までに何度も遊びに来ていただき雰囲気を感じ取っていただき不安の解消に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に自宅に訪問にしたり、ホームにお越しいただいたりし都度、確認している。また、本人のいるところで話しにくい内容等あった際は、日を改めお聞きしている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の問合せの際より本人や家族の話に耳を傾け、本人、家族にとって最善の対応ができる様具体的な話し合いに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にある「共に笑顔で暮らします」という事を大切に一方的なケアにならないようお互い助け合い、寄り添いあって生活できるようなかわりに努めている		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後、家族との距離が離れないよう、入居前から、家族の協力が必要なことを説明している。入居者にとって家族が精神的支えであること、家族と共に支えていきたいことをお伝えしている。面会時に日常の出来事など伝えて、喜びや悲しみ、苦しみなど共有できるような関係性ができるように働きかけている。家族参加の行事等取り入れ繋がり継続に努めている	担当職員が定期的に手紙で近況報告を行って、家族に本人の暮らしぶりを伝えたり、面会時には本人の生活歴や嗜好等の聞き取りを行うなど、本人に関する情報を共有している。日々の本人の言葉や様子から本人の希望を丁寧に拾い上げ、家族と一緒に買い物に行ってもらったり、家族の都合がつかない時は職員の付き添いを提案するなど協力し合って本人の生活を支援している。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人が訪れた際は、ゆっくりと過ごして頂けるように配慮している。今まで築きしてきた関係性が途切れないように、お店や美容院、友人宅等に気兼ねなく言って頂けるよう支援させていただき、関係性の継続に努めている	独自のアセスメントシートを活用し、本人にとって大切にしてきた馴染みの人や場所を把握しており、情報は随時見直ししている。馴染みの床屋の利用や、牛乳をとる習慣の継続、家族の協力を得て同じ地区の亡くなった友達のお参りに出かけるなど、本人にとって特別な関係や習慣を大切に支援を行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を尊重し、気持よく楽しく生活ができるように、職員は必要以上に割り込まず、関わり支えあえる橋渡しの役割を行っている。気の合う入居者同士が外出できるような支援も行っている		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了された方でも、関係性を大切にしている。グループホームでみとらせていただいた方の一周忌に伺わせていただく等、必要に応じて相談を受けたり、お茶を飲みに来ていただいたりできる様に心掛けている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「あなたの想いシート」でこれまでの習慣や得意なことなどと呼ばれたいか行きたい所などお聞きし暮らし方の希望や意向の把握したり、日常的な会話の中からの要望や意向をくみ取る様に努めている。内容等を経過記録に残したり、申し送り職員間の情報共有に努めている。	日々の本人の言動や様子から希望を丁寧に拾い上げて経過記録に記載しており、毎日のミーティングでは利用者のちょっとした変化についても話し合っている。意向の把握が困難な場合は、家族の情報や生活歴から推測して本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からお聞きし24時間シートを作製し把握に努めている	独自のアセスメントシートを用いて家族に聞き取りを行ったり、日々の関わりの中で本人に聞くなどして、生活歴や細かな生活習慣の把握に努めている。情報を活かして、余暇の過ごし方や、これまでの生活習慣の継続を支援している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の経過記録や1日一回の出勤職員全体のミーティング等で状態の変化や様子を職員間で共有している。必要に応じて医療連携体制にある看護師に様子を伝え状態の把握に努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見や家族の意向をもとに、職員間でも意見を出し合い作成時に反映している。現状に即したかわりができるよう都度話し合いを行っている。	担当職員がアセスメントを行って生活課題を抽出し、他の職員のアイデアも取り入れて計画作成担当者とともに介護計画の原案を作成している。それを基に本人・家族と話し合い、計画を完成させている。計画の実施状況は毎日チェックし、モニタリングは3ヶ月ごとに実施している。計画の見直しは1年ごととしているが、日々の実施状況が十分でなかったり、本人の状態変化があった場合は随時話し合っ計画を変更している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、ケアの実践・結果・気づきや工夫など経過記録に残すと共に口頭にて申し送るようにし、情報を共有に努めている。モニタリング・プラン更新時に役立てている。記録の内容不足の面もある為、今後も一人ひとりの気づきを充実していくため、経過記録の変更を行った。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望に寄り添えるよう柔軟な対応に努めている		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の商店や郵便局、金融機関、入浴施設、美容院等希望に応じて活用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前からのかかりつけ医を希望されている方は継続して受診していただいている。緊急時にも受診できるよう、ご本人、ご家族の意向をふまえながら協力医から診ていただけるよう対応している。最近主治医を変更された方も居られる。</p>	<p>本人、家族の意向を尊重したかかりつけ医から適切な医療が受けられる体制になっているが、協力医院の往診も月1回行われている。突発的な受診が必要となった場合は、隣接する同法人施設の看護師からアドバイスをもらい適切な医療が受けられるよう支援している。本人の近況を情報提供して医療機関との連携を図っており、特に協力医院の医師とは電話連絡だけでなくメールなどで24時間365日連絡を取れる関係が築かれている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携体制にある看護師と、日常の体調管理や、相談を行うとともに、夜間オンコール対応を行っている。様々な病状に応じて看護師に相談することで適切な処置、指示をもらい対応している</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>本人、家族の意向をふまえ、対応している</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>できる限り本人の希望に添えるよう努めている。事業所でできるところについて職員間での把握が不十分である。事業所としてどこまで対応が可能かといったところが課題でもある。</p>	<p>入居契約時、「重度化・看取りに関する指針」を用いて、“最大限可能な範囲で対応する”という方針を本人・家族等に説明している。現在までに協力医院のバックアップにより3名の方の看取りを経験しているが、本人の状態変化が見られた場合には意向を確認しながら本人や家族の安心が得られるよう支援している。看取りを経験したことにより職員間での情報共有の重要性を再認識し、改めて教訓として支援に取り組んでいる。</p>	
34	(12-2)	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署職員により救命講習や園内研修に参加している。2年に1回全職員が受けている</p>	<p>全職員が定期的に消防署で救命救急講習を受講している。また、実技を含む緊急時の対応、食中毒、事故予防など、年間を通して多様な内容の内部研修を行っている。ミーティング時などにも、看護師より火傷の際の対応などについても説明を受けている。発生した事故については定期的に評価し再発予防につなげる体制が整っている。</p>	<p>年1回、同法人施設と合同で実技を交えた研修を実施しているが、重度化・終末期への対応も行っていることから、利用者の身体レベルが低下しつつある現状を踏まえて、職員の実践力を高めるために、医療の専門職である看護師より知識・技術面の協力を得ながらの実技訓練についても定期的実施を望みたい。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練時に、地域の消防団員にも参加していただき避難訓練を行っている。	同法人施設と合同で地域の方々の参加も得て、定期的に地震や夜間の火災などを想定した防災訓練を実施しており、防災訓練のDVDによる学習も行っている。風水害マニュアルも作成しており、今後、訓練に基づいて、簡単な手順書やスロープの設置の検討、詳細な内容のマニュアルの作成などを予定している。	
、その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分だったらどうかと常に考え、一人ひとりの尊厳や誇りを傷つけないよう親しみをこめた言い方の中にも礼儀を忘れず対応している。	年間を通して、認知症やプライバシー、倫理、接遇など多様な内容の研修が行われている。また、「もし自分が認知症だったらしてほしいこと、してほしくないこと」を職員間で話し合っ自分たちの関わり方の振り返りを行っており、人格を尊重した対応や言葉かけが意識付けられている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人の意向をふまえ実施している。必ず確認を行う事で意向に添えるよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースにあわせ個々にあわせた希望に沿った支援を心がけ実践している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じ床屋や美容院を利用したり、着替え等できる限りきたいものを選んでいただいたりしている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃から嗜好をうかがいそれにあった物の提供や、得意とする事やできる事を一緒に行っている	食事作りや後片付けに関しては、一人ひとりの得意分野や力を見極めて、それぞれが主体となるよう支援している。献立は利用者や相談しながら立てているが、一人ひとりの嗜好や希望に応じて、笹団子やちまき作り、餅つき、出前を取るなど、食への関心を引き出し、食事を楽しんでもらえるよう取り組んでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	経過記録を参考に1人ひとり必要な栄養を確保できるよう努めている。メニューは職員が栄養バランスを考え作成し、都度入居者の要望に応えられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者一人ひとりの状態に応じて、言葉かけやお手伝いを行っている。義歯も週2回の洗浄剤を使っでの消毒を行っている。必要に応じて、歯科受診を行っている		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に応じて言葉かけや見守り、付添などを行っている。経過記録に排泄記録を記入しており、紙パンツから布パンツへの移行等、自立に向けた支援、言葉かけや物品の準備に努めている。	排泄チェックを行ってパターンを分析し、習慣や仕様等の観察により一人ひとりに応じて自立に向けた排泄支援を行っている。リハビリパンツから布パンツへの変更に取り組み、身体症状が改善した事例もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日10時15時に水分補給をおこない、1日の食事の中に乳製品と果物を必ず1回は摂取している。また、お茶のほかにジュース、コーヒー、ゼリー等工夫して水分を取っていただけよう心掛けている。それでも排便が困難な方には、かかりつけ医に相談して薬を調整して対応している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は特に決めていない。希望や状態に応じて1～3日おきに入浴若しくは清拭をして頂いている。現在はほぼ午後からの入浴になっており夜間の入浴を希望されている方はいないが、希望があれば対応できるよう配慮させていただいている。	入浴の回数や時間は利用者の希望に応じている。浴槽は、三方から介助ができる造りで手すりも設置されており、利用者が安全に安心して入浴できるよう配慮されている。入浴を好まない方へは、職員間で声かけ方法の情報を共有し、無理強いしない対応をしている。入浴剤の使用や、菖蒲・柚子などの季節にちなんだ変わり湯、地域の温泉施設に行くなど入浴を楽しむ工夫をしている。年1回の施設全館消毒の日は、隣接する福祉センターで職員と共に入浴を楽しむことが恒例となっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者それぞれの希望される場所(居室やリビング)で休んで頂いている。寝具は週1回交換のほか、汚れた際も随時交換させていただいている。また、体調や状態に応じて、掛物調節やお部屋の温度・湿度管理に気をつけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は一覧化しいつでも確認できるようにファイルに閉じてある。服薬内容の変更については経過記録や申し送りノート、口頭で確認し副作用も含め周知している。服薬状況はチェック表を用い、必要に応じて時間記入をするなどして把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や得意なこと、興味のあるものなど、過去の生活歴やお話から見つけ出し、役割ややりあいが持てるようにしていく。嗜好品のタバコは職員が付き添い吸っていただいている。散歩などに出かけて気分転換等支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩や買い物は状態に合わせ支援させていただいている。ご家族にも協力していただけるようかかわらせていただいている	天気の良い日はウッドデッキでご飯を食べるなど外の空気に触れることを大切にしている。一人ひとりの希望を把握して誕生日には希望の場所へ外出したり、また、恒例の行事での外出のほか、その日の希望に応じた外出も行うなど、可能な限り外出を支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望、能力に応じて、お金を自己管理され、なかには郵便局や金融機関に行き自分で引き出されている方もいる。その他は事業所で管理押して必要に応じて使えるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙があった場合都度支援している。電話をかける際もご家族に協力していただき支援している。遠方の家族から定期的に葉書を受けとっておられる方もいる。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共有スペースに花を飾り季節を感じて頂けるよう配慮したり、ウッドデッキから花等を見れる位置で栽培したりしている。また、入居者同士気兼ねなく快適に過ごす事が出来るようしつらえの検討を行っている	リビングは大きな窓に囲まれており、時間の流れや季節の移り変わりを楽しむことができる。西日を軽減するカフェカーテンやソファの配置、畳スペースの有効活用など、随所に職員のアイデアが活かされている。食事スペースと談話スペースを分け、壁の掲示物はさりげない程度で過度にならないようにし、利用者がゆったりと過ごせる環境づくりがなされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、ソファと各々が好きな場所で過ごしていただけるよう配慮している。今後、畳コーナーも工夫し居心地の良い空間づくりに努めていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から使い慣れたも物を持ってきていただき、居心地のいい空間になるように、ご家族と相談しながら以前の暮らしと変わらない生活を送っていただけるよう支援している。 見慣れた持ち物を取り入れることで、くつろげる空間となっている。状態に合わせてベッドやタンス等の位置を変更し安心して暮らせるよ配慮している	入居前に本人・家族と面談する際に、利用者にとっての馴染みのものの重要性についてアドバイスし、寝具や家具、調度品、電化製品など使い慣れたものを自由に持ち込んでもらっている。利用者それぞれが趣味の品や仏具、冷蔵庫などを持ち込んでおり、その人らしい居室づくりがされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの状態に応じて生活しやすい状況にさせて頂いている。本人のできる事を安全に行っていただけるよう、障害物の排除し、夜間転倒防止のため足元灯を設置するなど危険のないよう環境整備に努めている		